

一般 地域計画に影を落とす深刻な茶業情勢

渡辺 修（みどり21）



令和6年の茶業は昨年以上の厳しさが予想されます。買い支える茶問屋さんが軒並み苦しい状況だと伝わってきます。地域計画にも影を落とす深刻な茶業情勢について質問しました。

Q 直近5年で市内の茶農家数、茶工場数の減少はどのくらいか。

A 茶農家数は、令和元年度の891戸に対し令和5年度が479戸と約半数となり、茶工場は、令和元年度の77工場に対し令和5年度が58工場と19工場の減となっております。

Q 茶園を他作物に転換していくために、土地を必要とする大手野菜法人などに働きかけていくことはできないか。工業団地の企業誘致と同じ感覚で動けないか。

A 大手野菜法人などの参入は、担い手の確保や農地の荒廃化の抑制として市としても農業委員会や農業法人誘致推進連絡会と連携し、法人への働きかけを進めていきたいと考えております。



Q 昨年の肥料高騰対策、本年の国産タブレット肥料補助金、ともに茶農家には大変な力になりました。国からの補助がなかった場合でも、何とか今年も肥料高騰対策ができたか。

A 令和6年度からは、環境負荷低減の取組が補助事業の要件となる動きも見られますので、市としても、国や県の動向を注視しながら、環境負荷低減に取り組む農業者を増やしていきたいと考えております。

一般 駅北開発の進め方について

横山 陽仁（みどり21）



JR菊川駅周辺整備が令和9年度に完成するが、駅北の開発についてどのように進めていくか質問した。

Q 地権者からの買い取って欲しいという意向は。

A 筆数ベースで約6割の人が売りたい意向を示している。

Q 地権者の協議をまとめる時期は。

A 令和6、7年度で仮エリア内の合意形成をとりまとめ、その後の組合設立に向けた準備を進めて行きたい。他市の事例を参考にすると事業期間は8年程度を要する。

Q 開発の考え方は。

A 区域内には売りたい方、貸したい方、持っていたい方、反対の方もいる。それを考えると区画整理事業が有効と考えており、短い時間で進めるには民間業務代行方式がベストと考える。

Q どういう住宅地にしたいかという夢を持たせる必要があると思うが。



A 地権者の皆様の案を現在、提案して頂いている段階である。外から来られる方も重要で、様々な人の意見を聞くことも大事と考えている。

Q こういう新しい仕事をやりたいと手を挙げる若い職員がいたら専任でやらせてあげたらどうか。

A 区画整理事業経験者も少なくっており、建設経済部の立場からはプロジェクトチームで進めていきたいとありがたいと考えております。